

地域医療連携室たより

No.32

発行日

2015年11月24日

医療法人社団松柏会
至誠堂総合病院



地域医療連携室たより
第32号

地域医療をしっかりと
ささえられるように



内科医

かわ せ りゅう いち

川瀬 隆一 医師

今年4月当院に就任しました。
今後の抱負をインタビューしま
した。

医師をめざしたきっかけは？

岐阜県生まれ。3人姉妹誕生後末っ子の長男として生まれた。幼い頃体が弱く、開業医の医師に診てもらうことがしばしばあった。そのころの医師のイメージは往診もする町医者だった。中学生の頃、母親が大病を患い数ヶ月入院することがあり、このことが医師を目指すきっかけとなった。

現在の研修状況は？

山形大学医学部を2013年春に卒業し、宮城県坂総合病院で2年間研修をし、2015年春当院での内科の研修を開始した。

内科総合研修ということで当院の外来や入院の受け持ちを主に日々の業務にあたっている。また当法人

診療所であるわかばクリニック往診や、中山診療所の外来を担当している。初期研修のときに比べ、より高齢な方を診る大変さはあるが、医学的なことだけでなく、山形という地域性を日々学びながら、研修できている。

腹部エコーや内視鏡といった手技の習得や外部研修・講演会の参加など、まだまだやりたいことはいっぱいあり、とにかく貪欲に研修に臨みたいと考える。

患者教育の場も設けさせていただき、糖尿病教室や健康教室での高血圧の講演などをさせていただいた。また知識の共有、スタッフ間の連携を高めるため、病棟での学習会（心電図の読み方）も行った。



病棟にて

月1回「山形レジデントデイ」を開き研修報告を

9月の末から毎月月末の月曜日夕方5時から「山形レジデントデイ」と称し症例の発表と研修報告を、医局の医師、多職種を含めて行っている。

そこでは、認知症末期の患者を看取った症例の報告をした。市内病院より転院してきて2週間ほどで亡くなった。抗生剤の投与はこれでよかったのか。患者の社会的背景における問題点は何か。何回かの家族との面談を通して今後の方針を決めた。

今後はこの「山形レジデントデイ」を継続して行い、当院スタッフだけでなく、外部の医療関係者も参加できるようなものにしていきたい。また今後、当院での研修を考える後輩たちも続いていけるよう、より良い研修内容にしていきたいと考える。

今後どのような医師になりたいか。

何でも診れる医師を目指したい。総合診療科のような。麻酔科にも興味がある。全身管理が求められるという意味でも学んでいきたいと考えている。自分の強みとして麻酔という分野を極めたいが、患者さんのためという姿勢を常に忘れず、診療に臨んでいきたい。

医学的な探求も、もちろんしていく。この地域が抱えている問題も捉えながら、地域医療をしっかり支えられるような医師になっていきたい。

趣味は？家族は？

スポーツ観戦が好きである。サッカーに野球に。モンテディオのファンであり、野球は中日ドラゴンズの熱烈なファンである。

おいしいものを家族と食べ歩くのも好きである。「ZERO★23」をみながら。ラーメン、そば、山形はおいしいものがたくさんある。

妻と長男、長女。長女はこの10月に生まれたばかり。日々、家族に支えられていると感じる。これからも家族いっしょの時間を大事にしていきたい。

温和で、そして、気さくな川瀬先生です。若い力で、私たちに引っ張ってってください。お願いします。

至誠堂総合病院 第14回地域連携交流会 講演会 開催

9月30日(水)午後6時30分～午後8時30分 大手門パルズ

在宅ケアの不思議な力

～住み慣れた町で暮らし続けるために～

秋山 正子 氏

(株)ケアーズ白十字訪問看護ステーション統括所長



講師 秋山 正子 氏

東京都新宿区で行っている訪問看護の実際と、国の助成を得ながら立ち上げた相談支援の場である「暮らしの保健室」の活動内容について報告がありました。

演者自身2歳年上の姉の末期がんを看取った経験を通して在宅医療に関わるようになった経緯や、NHKプロフェッショナル「仕事の流儀」のDVDを通し、主に高齢者を対象にした訪問看護の実際の様子が述べられました。病院で看取ることが一般化している現在、在宅（在宅に近い施設施設を含む）での看取りや、穏やかに人生を終えるところまで支える医療が求められているのではないかと。

これらを実現するために、団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に地域包括ケアシステムの構築の必要性、基本理念や具体的なあり方について事例を通しての話がありました。

「在宅医療」を支えるネットワークづくりが重要であり、質の高い終末期のケアを支えるには医療・介護には一体的な提供の必要性があり、重装備せずに終末期を看取った事例の紹介がありました。高齢化の進む団地の中の一角に「暮らしの保健室」を開設し、その活動内容の報告がありました。気軽に立ち寄れる相談支援の場として活動しています。

高齢者の一人暮らしが増え、住み慣れた家に帰れない状況もたくさんありますが、困難を抱えた人を地縁のなかで看取ったり、地域で支えることが今後ますます重要になり、看取りができる街をつくっていくという呼びかけがなされました。



座長 高橋 敬治院長



秋山氏の話に聞き入る参加者たち

閉会のあいさつ
小林 真司医師

回りハ病棟で大運動会



レー、玉入れ。今年は引き分けで終了。最後に病棟専従医である谷口央医師より赤組、白組の代表者に表彰状が渡されました。がんばりましたね。

9月23日、当院4階回復期リハビリテーション病棟の病棟行事として「大運動会」が行われました。患者さんたちは赤組と白組に分かれ、はちまきをして熱戦が繰り広げられました。競技内容は風船バレー、お玉リ



谷口 央 医師

我らが街 桜町・木の実町・旅籠町商店街 ②②



店主いっしゅのラーメン

みどり屋

山形市旅籠町1-17-16 TEL023-622-4079

営業時間 11:00~16:00

定休日 日曜日

店主 田中進一さんに聞く

昭和25年創業。朝4時半に起き、仕込みにはいります。牛肉、野菜を使ってスープをとり、チャーシューは分厚い牛です。気をつけていること、それは、味をくずさない事です。今の味を好んで来店するリピーターが多いからです。お昼は近隣の勤め人でいっぱいになります。どうぞ、召し上がってみてください。



落ち着いた雰囲気の店内



日本医療機能評価機構認定施設
病院機能評価

至誠堂総合病院 地域医療連携室

山形市桜町7-44
023-622-7551 (直通)
<http://www.shiseido-hp.jp>
E-mail mail@shiseido-hp.jp
発行責任者 至誠堂総合病院
小林 真司
編集 地域医療連携室